

災害復旧事業によせて

## 街道に待ちわびた賑わいが、再び

～岩手・宮城内陸地震の災害復旧～



岩手県一関市長  
勝 部 修

### 1. はじめに

このたびは、一般国道342号災害関連事業について、月刊「防災」への投稿の機会を頂いたことに対し、深く感謝とお礼を申し上げます。

一関市は、岩手県の南端、宮城県・秋田県との県境に位置し（位置図）、西方には栗駒国立公園の秀峰栗駒山（須川）を仰ぎ、東方には室根山県立自然公園が鎮座し、その真ん中を悠々と流れる北上川。その支流には、栗駒山、名勝天然記念物「巖美溪」や日本百景「狹鼻溪」などがあり、広大な自然の造形につつまれた面積1,113km<sup>2</sup>、人口約12万人の都市です（写真-1）。

自然豊かな山があり川が流れ、奥州藤原氏の優れた文化が色濃く残る城下町・一関には、長い歴史の中で大切に育まれてきた自慢の逸品が揃っています。いわてが誇る新ブランド「いわて南牛」をはじめ、「ひとめぼれ」、「ナス」「干しシイタケ」「小菊」などの農産物や特産品、工業の振興など、岩手県南、宮城県北地域の「中東北」の拠点都市として産業振興に取り組み、「地域資源を生み育て賑わいと活力あふれるまちづくり」を進めています。

### 2. 岩手・宮城内陸地震の被害状況

#### 岩手・宮城内陸地震の発生

平成20年6月14日、午前8時43分、一関市内中心部から西方約26km地点（北緯39度01.7分、東経140度52.8分）を震源として、深さ約8km、M7.2の直下型地震「岩手・宮城内陸地震」が発生し、主に岩手県と宮城県に大きな被害をもたらしました。



写真-1

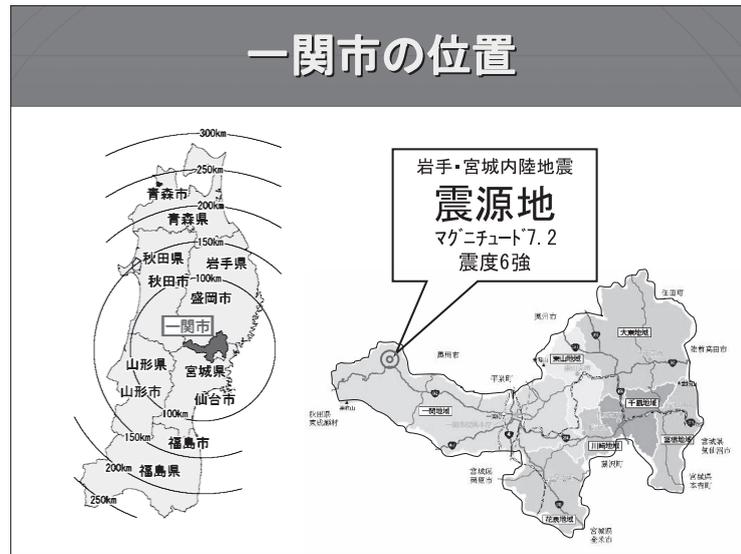
一関市における震度は、震源周辺地域で最大震度6強、一関市内でも震度5強を記録しました。

市では、地震発生後直ちに災害対策本部を設置し、被災者の救援対応や被災状況の把握、住民への情報伝達などの緊急対応、避難所の開設などにあたりました。

#### 被害の様子

地震発生から数時間、なかなか被害情報が入ってこない中、国土交通省防災ヘリコプターみちのく号からの映像や現地調査にあたった消防団からの情報が入り始め、被害の物凄さが時間の経過と共に明らかになってきました。

一関市内から栗駒山に向かう一般国道342号では、祭時大橋の落橋（写真-2）や法面崩落。栗駒山麓を源流とする磐井川でも、至る所に崩落土砂や大きな岩。そして、市野々原地区では大規模地すべりによって河道が完全に閉塞状態となり天



位 置 図



写真-2



写真-3

然ダム化 (写真-3) していくヘリコプター映像が、その時点で唯一の情報でした。

被害調査は、翌日15日から国土交通省緊急災害対策派遣隊「テックフォース」と、砂防ボランティア岩手県協会が現地入りし、橋梁の点検、土砂災害危険個所の点検などを実施していただきましたが、その迅速な対応には驚くものがありました。

当市所管施設の被害状況は、公共土木施設被害が河川28カ所、道路195カ所、橋梁8カ所、このほか都市施設や農林施設等を含めた市全体の被害総額は約43億円にのぼりました。また、人的被害

は、死亡者1名、土砂崩れに巻き込まれた2名が負傷しました。

**避難の状況**

被災地からの避難は困難を極めました。法面崩落などで国道が機能せず通常の輸送路が断たれた状況の中で、孤立した集落の方々や、栗駒山に訪れていた多くの観光客が、青森県、福島県、新潟県、栃木県の防災ヘリコプター、札幌市消防局、岩手県警、千葉県警、東京消防庁、海上保安庁と自衛隊など、全国から救援に来てくれたヘリコプターで地震発生から2日目までに全員無事救助さ

れました。

避難所に指定した被災地近くの本寺小学校には、この他家屋倒壊の恐れのある方々など、あわせて11世帯40名が避難することになりました。

#### 国道342号の通行止めで一変した巖美街道

初夏の装いを始めた栗駒山を散策しようと訪れたお客さん達で賑わっていた国道342号（地元での愛称：巖美街道）沿いの地域は、地震発生後からその様子が一変してしまいました。

この巖美街道沿いには温泉がいくつもあり、「湯けむり街道」と、もう一つの愛称もつけられています。なかでも栗駒山の登山口にあたり秘湯として知られ、全国から沢山の方々が訪れる須川高原温泉等、震源地近くの温泉施設が大きな被害を受け、やむなく休業となりました。

また、道路沿いには地元農家が開設した産地直売所が数か所設けられ、季節折々の野菜がならび評判となっていました。訪れる観光客がなくなり、残念ながらこれも休業せざるを得なくなりました。

この日を境にして、これまでの賑わいとは別に、国、県、市による災害復旧工事と地域の力が一体となった、復興に向かっての様々な取り組みがスタートしていきました。

### 3. 一般国道342号災害関連事業

#### 3-1. 被害の概要

一般国道342号は、須川高原温泉や栗駒国定公園等への岩手県側からの唯一のアクセス道路となっています。

一関市巖美町須川(秋田県境)～真湯間の約15kmは、地震により、4ヶ所で大規模な崩落が発生したほか、路面の地割れ・陥没など多く発生し全面通行止めとなりました(写真-4)。

#### 3-2. 事業の概要及び特徴

##### (1) 事業概要

延長：L=1,191.3m  
(うち、改良区間586.3m)  
事業期間：平成20年度～平成22年度  
事業内容：未改良区間の2車線改良  
(車道5.5m、全幅7.0m)



写真-4

##### (2) 事業の特徴

地震による災害では、4ヶ所の大規模な崩落のうち、1ヶ所について、災害関連事業を採択していただきました。

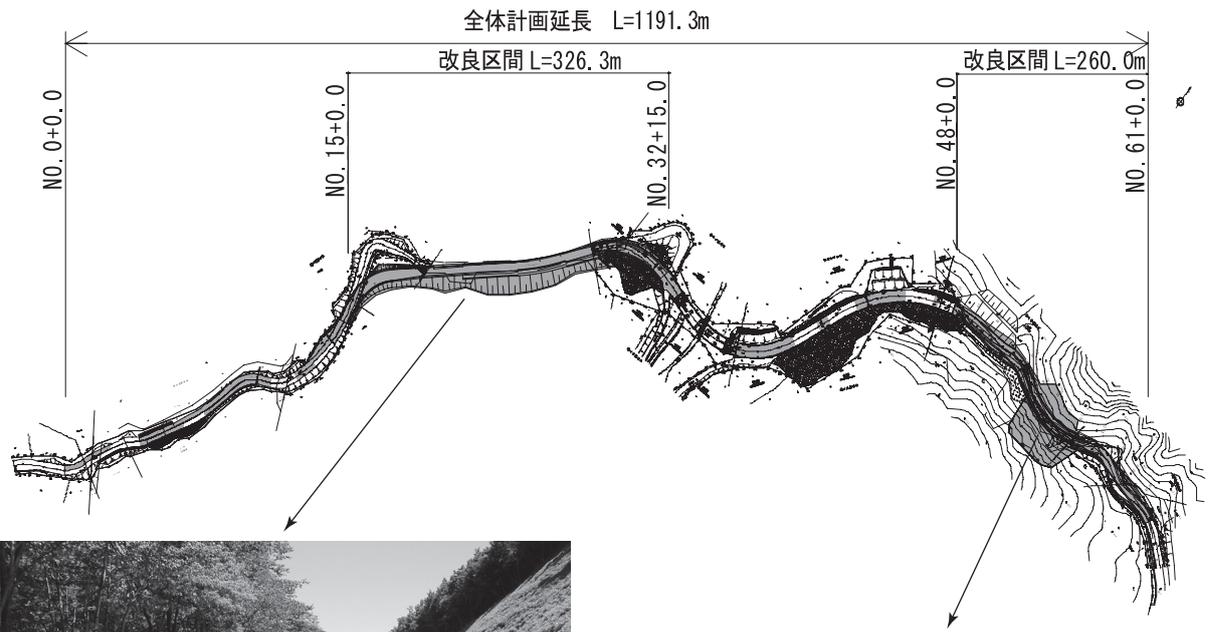
当該区間は、幅員狭小、急カーブの未改良区間となっていたことから、安全で円滑な交通の確保を図るため、前後区間にあわせ2車線改良しました。地形が急峻で、また、積雪のため冬期には工事ができないなど、施工性、経済性などからアンカー付山留式親杭パネル工法を採用し、工期の短縮を図りました。

### 4. 災害復旧の状況

災害復旧工事は、道路、河川、農地、学校、など多種にわたりました。取り分け、大規模な工事となる土木施設と治山施設の復旧は、国土交通省、林野庁、県土木部局、県農林部局、そして本市と所管が分かれるため、他機関の工事箇所を通らないと資材の搬入が出来ないなど、工事箇所毎に幾つかの機関との調整が必要で、しかも急がなければならないため、県一関振興局(当時)の土木部長さんを中心に、「一関地区震災対策に関する調整会議」を組織し、全体を効率的に進めるという観点から、状況説明や依頼事項をまとめて話し合い、調整にかかる時間短縮を図ったことで順調に工事が進みました。

主な災害としては、まず第一には河道閉塞(天然ダム)です。

大規模地すべりによって発生した河道閉塞(市

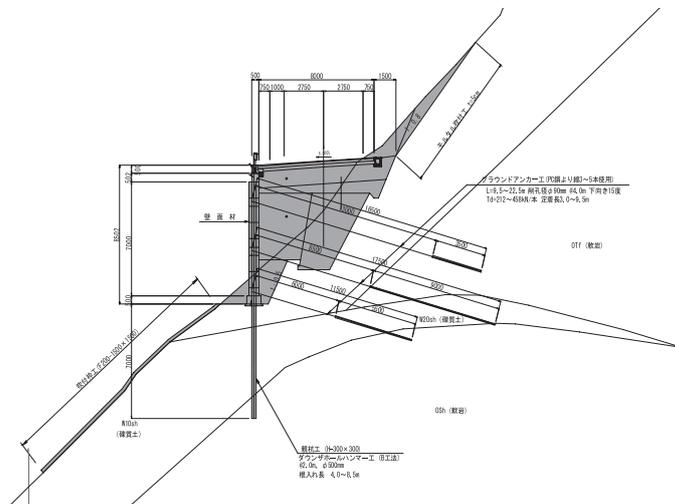


改良区間



被災直後

平面図



標準横断面図

アンカー付山留式擁壁工	621m <sup>2</sup>
コンクリートブロック積工	952m <sup>2</sup>
吹付法砕工	699m <sup>2</sup>
アスファルト舗装工	7,400m <sup>2</sup>

野々地区)では、天然ダムと化して日に日に水位が上昇していき、川の水位が貯まった土砂の高さを超えて決壊し、土砂を巻き込んで市街地に押し寄せる危険性が有ったため、国土交通省は直轄砂防災害関連緊急事業により磐井川の脇に排水路の掘削を行いました。各地で過去に起きた大地震を契機に開発されたポンプ設備や災害対策用機械、通信関係機器、そして中越地震での天然ダム対応経験者などを素早く派遣していただき、地元として大変心強く感じました。また、地すべりの発生した斜面を安定化させるため林野庁は民有林直轄治山事業による大規模地すべり復旧対策工事に着手され、国交省と連携して行うことで工事期間の大幅な短縮が図られました。本復旧工事(排水路)はこの4月に完成し、大雨が降っても土砂の決壊を起こす心配は無くなりました。

主な災害の第2は、国道342号です。

災害時に落橋し、地震の象徴となった感のある祭時大橋、至る所で発生した土砂崩落。これだけ大規模な崩落が数多くあったのに巻き込まれて亡くなる人がいなかったのは不幸中の幸いでした。しかし、国道は生活道路でもあったので、沿道の集落が孤立化し住民は避難所生活を余儀なくされました。

各機関の復旧工事の進捗と集落の孤立化対策として、岩手県では直ぐに迂回路の建設に着手され、その年の11月末には迂回路として国土交通省が災害対策用に開発した「応急組立橋」を含む仮橋を2箇所設置するなど最も西にある集落まで、道路が開通できました。これにより、土砂災害危険箇所の判定で「危険」とされた3世帯をのぞき、避難勧告が解除されました(最期に残った3世帯は、翌年6月に対策工事の実施により解除となっています)。

本格復旧は少しずつではありますが、市街地側から西へ西へと進みました。仮設道路の建設も危ぶまれる程急峻な地形での復旧工事となり、誰しもが復旧の可能性を疑った真湯から秋田県境約15km須川までの区間では、従来から大型バスの相互交差の困難な場所が多かったため災害復旧に併せて1.5車線の道路整備が導入され、部分的な線形改良や待避場所の建設により、以前より走行性の改善も図られました。そして、多くの関係者の尽

力によって工事が順調に進み、橋梁の新設など一部の工事が継続されていますが一般車両の通行に支障がなくなったことから、予定を早め本年5月30日に再開通を迎えることができました。

こうして、岩手・宮城内陸地震による災害復旧工事は、地震発生の平成20年6月14日から2年弱で概ね完了となりました。

## 5. 開 通

### 一般国道342号再開通

開通式は岩手側の通行止め箇所「真湯ゲート」で行われ、達増知事をはじめ、災害復旧に携わった団体や関係者約130名が出席したほか、住民等約70名が駆けつけてくれました。式典の後、復旧された道路を上っていくと、佐竹秋田県知事や佐々木東成瀬村長が県境にあたる山頂ゲート部で出迎えてくれ、地元の子供達も一緒に「よさこいソーラン」や「餅まき」等イベントに参加してくれました(写真-5)。

また、地元の観光協会では、これまで支援してくれた全国の方々や昼夜を問わず復旧工事に尽力された方々に「感謝」の意を表す缶バッチを1万个製作し、多くの市民にいろんな場所で付けてもらうようにしています。

## 6. おわりに

岩手・宮城内陸地震は私たちに、防災意識と命や財産を守るための施設整備の重要性をあらためて教えてくれました。

私たちはこの教訓から、将来を担う子供たちの防災教育や将来の減災につなげて行こうと、市野々原地区の大規模地すべりによる天然ダムは、排水路の完成でかなり小さくなりましたが「湖」の状態、また、落橋した祭時大橋は、ほぼその状態で遺構として保存することとし、一関市を訪れる多くの皆さんに、平成23年4月から間近で見ていただけるよう準備を進めています。

また、一時遠のいていた観光客も国道の開通とともに、少しずつではありますが訪れていただくようになり、以前のような賑わいが戻りつつあることを感じられるようになりました。

あれから3度目の夏が過ぎ、これから山は紅葉の季節を迎えようとしています。この機会に元気



復興乃碑 除幕



開通直後 真湯地区

写真－5

を取り戻している一関市に一度足を運んでいただければ幸いです。

結びに、国土交通省、財務省及び岩手県をはじめ多くの関係機関や関係者の方には迅速な対応をいただき、一般国道342号災害関連事業、公共施

設災害復旧事業等の工事が無事進みましたことについて心より厚くお礼申し上げます。

今後とも引き続きご支援のほどよろしく申し上げます。